

15 学習活動の充実

①施策の展開	学習環境の整備・充実	課名	社会教育課 地域教育振興課
②取組概要	あらゆる年齢層に応じた様々な学習機会や、多様な方法による学習情報の提供を行う。また、市民の学習活動の普及促進をめざし、指導者養成に努める。		
③構成取組	(1) 生涯学習推進事業 (2) 社会教育施策推進事務 (3) 施設管理事業（教育センター、中央公民館、エスポアール） (4) 成人式事業		

④取組計画	<p>(1) 市民の生涯学習活動を支援するため、学習情報を提供し充実に努める。また、生涯学習関連施設（教育センター、中央公民館、エスポアール）と協働し、市制施行 60 周年記念事業として生涯学習記念事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>まちのせんせい</u>⁽²⁵⁾活用事業を積極的に推進するため、企画段階から依頼者の相談に応じる。 ・ 成人教育講座事業については、PTA協議会や各コミュニティセンターと連携しながら、市民ニーズに合致したテーマでの学習機会の提供を図る。 <p>(2) 社会教育部内の職員が<u>社会教育主事</u>⁽²⁶⁾講習や社会教育関係研修会等に積極的に参加し、指導体制の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育施策の充実に努めるため、社会教育委員会議を開催する。 <p>(3) 教育センター及び中央公民館、エスポアールにおいては、<u>指定管理者</u>⁽²⁷⁾による効率的・効果的な管理運営に努める。教育センターについては、本館・体育室の耐震補強設計を行い、施設の安心・安全に向けた取り組みを図る。また、中央公民館に</p>		
-------	--	--	--

については、講堂のピアノ買換えにより、施設・設備の充実を図る。

(4) 例年より早い段階から実行委員会を組織し、内容の更なる充実に努める。

⑤取組実績

(1) 市民の生涯学習活動を支援するため、各種講座やイベントの行政情報を提供する「講座・イベント編」、学習活動を行う団体やサークルの情報を提供する「団体・サークル編」の2種類の生涯学習情報誌（ねやがわ生涯学習あんない）を発行した。

<生涯学習情報誌発行数・掲載情報数>

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
発行冊数	5,500 冊	5,700 冊	5,700 冊
掲載団体数	1,026 団体	982 団体	916 団体
掲載講座数	748 講座	728 講座	796 講座

- ・ 生涯学習の推進を図るため、生涯学習記念事業を実施し、講演会を行うとともに、生涯学習関連施設の利用者及び指定管理者による舞台発表や展示等を行った。（延べ参加者数 656 人）
- ・ まちのせんせい活用事業は実践交流会や、保育所・幼稚園・小中学校・福祉施設等へ積極的にPRを行った。
- ・ 成人教育講座は、市PTAや市内コミュニティセンターと共催したため、市民ニーズをより反映した講座を開催することができた。

<事業参加状況>

	項目	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
まちのせんせい 養成活用事業	延べ登録者数	64 人	97 人	106 人
	派遣依頼件数	30 件	73 件	142 件
	派遣人数	31 人	69 人	136 人
成人教育講座	延べ参加者数	771 人	819 人	651 人

(2) 市民の社会教育活動を支援するため、社会教育部内の職員が社会教育主事講習の受講や各種研修会へ参加するなど、指導者の育成・資質向上を図った。

- ・ 市民代表の意見を聴取し社会教育施策の充実を図るため、社会教育委員会議を年4回開催した。また、委員自らが社会教育行政に関する学習会を年6回、役員会を年10回開催した。

(3) 指定管理者による効率的・効果的な管理運営を行うとともに、より適正な管理運営となるよう、実地調査や指定管理者からの事業報告等による実績検証を実施した。

- ・ 教育センターにおいては、施設の安心・安全に向け、本館・体育室の耐震補強設計を実施した。
- ・ 教育センターの事業については、「子どもデイサービス事業」「生涯学習事業」「イベント事業」を実施した。利用者アンケート結果をもとに企画・実施するとともに、ものづくりを通して親子のふれあいを深める「親子アートフェスティバル」など新規事業も行い、創意工夫を行った。また、利用者に対し生涯学習に関する指導・助言を行い、事業参加者が新たにサークルを結成した。

<教育センターの利用者数>

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
事業参加者数	41,467 人	51,111 人	47,888 人
貸館利用者数	20,982 人	16,847 人	19,771 人

- ・ 中央公民館においては、講堂のピアノ買換えにより、施設・設備の充実を図った。
- ・ 中央公民館の事業については、「市民大学」「寿楽学級」など従来実施している講座の充実を図るとともに、「親子音楽教室」などの新規事業を実施し新たな年齢層の利用促進を図った。

< 中央公民館の利用者数 >

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
事業参加者数	19,989 人	21,772 人	20,004 人
貸館利用者数	147,877 人	164,011 人	154,000 人

- ・ エスポアールの事業については、「青少年成人事業」「児童健全育成事業」「親子ふれあい事業」「世代間交流事業」「子育て支援事業」を実施した。また、「東日本大震災写真展」等、新規事業を実施した。

< エスポアールの利用者数 >

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
事業参加者数	55,622 人	93,481 人	112,027 人
貸館利用者数	107,645 人	109,038 人	105,864 人

- (4) 例年より早い段階から実行委員会を組織したことで実行委員自らが企画・立案に関与でき、自らの手で作り上げていくことができた。

< 成人式参加状況 >

	項目	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
成人式	参加者数	1,412 人	1,378 人	1,406 人
	対象者数	2,318 人	2,195 人	2,325 人

⑥評価

- (1) 市民の生涯学習活動を支援するため、生涯学習情報誌を発行するとともに、その内容をホームページに掲載し、幅広い情報提供を図ることができた。
- ・ 市制施行 60 周年記念事業として実施した「生涯学習記念事業」の一般来場者へのアンケートでは、89.7%、発表者へのアンケートでは 100%の満足度を得るなど、生涯学習の推進を図ることができた。
 - ・ まちのせんせい活用事業については、前年比 195%の依頼件数があり、大幅に活用実績が伸び、利用者から好評を得ることができた。また、マジックや伝承あそび、パネルシアターというジャンルへの依頼が非常に多かった。しかしながら、積極的なPRを行うことでまちのせんせいの依頼は増えたが、依頼内容に偏りがみられた。今後は、未派遣のまちのせんせいの活用や依頼の少ないジャンルのPRに積極的に取り組むとともに、さらなる人材育成と人材派遣に努めていく必要がある。
 - ・ 成人教育講座については、コミュニティーセンターと連携することで、その地域におけるニーズに合った講座を開催することができた。
- (2) 社会教育主事講習の受講など、指導者の育成・資質向上を図り、市民の社会教育活動を支援することができた。
- ・ 社会教育委員会議については、学習会を行うことにより、社会教育委員としての共通認識を持ち意見交換をすることで、社会教育委員会議の活性化を図ることができた。今後は、社会教育全般の系統的な計画策定をめざし、課題及び方向性について、社会教育委員とともに調査・研究することが必要である。
- (3) 教育センター及び中央公民館、エスポールにおいては、引き続き指定管理者による管理運営を行うとともに、実績検証を実施し改善事項を指示するなど、より適正にかつ効果的・効率的な管理運営となった。

- ・ 各施設におけるアンケート調査の満足度は、教育センター 98.3%、中央公民館 97.1%、エスポアール 93.2%となっており、いずれも良い評価を得ることができた。
 - ・ 教育センターでは、利用者の安全確保のため、本館及び体育室の耐震補強設計を実施し、施設充実への取り組みを図ることができた。
 - ・ 中央公民館では、グランドピアノを購入し、講堂に設置したことで、利用者から好評を得ることができ、施設・設備の充実を図ることができた。
- (4) 新成人に対するアンケート結果で約9割の新成人に好評を得ることができた。